

2010年1月

1. 新聞・テレビ等

(生物薬品部)

- 山口照英

パンデミックに挑む

毎日新聞, 1月27日, 朝刊

新型インフルエンザのパンデミック(大流行)に対応するためには, 鶏卵を利用する従来法にかわり, 細胞培養によるワクチン製造法の確立が必要であることを解説した。

(有機化学部)

- Ohno, A., Kawasaki, N., Fukuhara, K., Okuda, H., Yamaguchi, T.

Oxytocin degradation by NMR (NMRによるオキシトシンの分解)

Staying Current: Formulation of Biopharmaceuticals, January (2010)

月刊誌, Legacy BioDesign 社, (USA)

タンパク質/ペプチドの新しい品質評価手法としてオキシトシンの分解の経時的な変化を例にあげ, ^1H NMRとPCA解析を組み合わせることで, タンパク質に関する分子の指紋情報を正確に識別できることを立証した国立医薬品食品衛生研究所の大野らの論文 (Chem. Pharm. Bull., 57, 1396-9 (2009).) が紹介された。

2. 誌上発表(原著論文)

(生物薬品部)

- Suzuki, T., Ishii-Watabe, A., Tada, M., Kobayashi, T., Kanayasu-Toyoda, T., Kawanishi, T., Yamaguchi, T.

Importance of FcRn in regulating the serum half-life of therapeutic proteins containing the Fc domain of human IgG1: A comparative study of the affinity of monoclonal antibodies and Fc-fusion proteins to human FcRn. (ヒトIgG1のFc領域を持つタンパク質性医薬品の半減期制御におけるFcRnの重要性: モノクローナル抗体及びFc融合タンパク質医薬品のヒトFcRn親和性比較解析)

J. Immunol., 184(4), 1968-76 (2010)

(遺伝子細胞医薬部)

- Yamaguchi, T.* , Suzuki, T., Arai, H.* , Tanabe, S., Atomi, Y.*

*東京大学

Continuous mild heat stress induces differentiation of mammalian myoblasts, shifting fiber type from fast to slow. (持続的軽度熱ストレスは哺乳類筋芽細胞の線維型を速筋型から遅筋型に変換し分化誘導する。)

Am. J. Physiol. Cell Physiol., 298, C140-C148 (2010)

(療品部)

- 伊佐間和郎, 河上強志, 土屋利江*, 松岡厚子

*大阪大学医学部附属病院

キャピラリー電気泳動法による家庭用品塗膜の鉛溶出量調査

生活衛生, 54, 27-32 (2010)

(衛生微生物部)

- Ohnishi, T., Muroi, M.* , Tanamoto, K.*

*Research Institute of Pharmaceutical Sciences, Musashino University

Inhibitory effects of soluble MD-2 and soluble CD14 on bacterial growth. (細菌増殖に対する可用性MD-2と可用性CD14の抑制作用)

Microbiology and Immunology, 54, 74-80 (2010)

- Sugiyama, K., Muroi, M. ^{*1}, Tanamoto, K. ^{*1}, Nishigima, M. ^{*2}, Sugita-Konishi, Y.

^{*1}Research Institute of Pharmaceutical Sciences, Musashino University,

^{*2}Department of Food and Health Science, Jissen Women's University

Deoxynivalenol and nivalenol inhibit lipopolysaccharide-induced nitric oxide production by mouse macrophage cells. (マウスマクロファージ細胞においてデオキシニバレノールとニバレノールはLPS誘導性NO産生を阻害する。)

Toxicology Letters, 192, 150-154 (2010)

- Aoyama, K. ^{*1}, Nakagima, M. ^{*2}, Tabata, S. ^{*3}, Ishikuro, E. ^{*4}, Tanaka, T. ^{*5}, Norizuki, H. ^{*6}, Itoh, Y., Fujita, K. ^{*4}, Kai, S. ^{*7}, Tsutsumi, T. ^{*6}, Takahashi, M. ^{*8}, Tanaka, H. ^{*9}, Iizuka, S. ^{*4}, Ogiso, M. ^{*4}, Maeda, M. ^{*10}, Yamaguchi, S. ^{*10}, Sugiyama, K., Sugita-Konishi, Y., Kumagai, S. ^{*11}

^{*1}Food and Agricultural Materials Inspection Center, Sendai Regional Center, ^{*2}Nagoya city Public Health Research Institute,

^{*3}Tokyo Metropolitan Institute of Public Health, ^{*4}Japan Food Research

Laboratories, ^{*5}Kobe Institute of Health, ^{*6}Japan Grain Inspection

Association, ^{*7}Kanagawa Prefectural Institute of Public Health, ^{*8}All

Nippon Checkers Corporation, ^{*9}Suntory Business Expert Limited, ^{*10}Japan

Frozen Foods Inspection Corporation, ^{*11}University of Tokyo

Four-years surveillance for ochratoxin a and fumonisins in retail foods in Japan. (わが国における小売食品中のオクラトキシンとフモニシンの4年間の汚染実態調査)

J. Food Prot., 73(2), 344-352 (2010)

- Sugita-Konishi, Y., Sato, T. ^{*1}, Saito, T. ^{*1}, Nakagima, M. ^{*2}, Tabata, S. ^{*3}, Tanaka, T. ^{*4}, Norizuki, H. ^{*5}, Itoh, Y., Kai, S. ^{*6}, Sugiyama, K., Kamata, Y., Yoshiike, Y. ^{*7}, Kumagai, S. ^{*8}

^{*1}Kitasato University, ^{*2}Nagoya city Public Health Research Institute, ^{*3}

Tokyo Metropolitan Institute of Public Health, ^{*4}Kobe Institute of

Health, ^{*5}Japan Grain Inspection Association, ^{*6}Kanagawa Prefectural

Institute of Public Health, ^{*7}National Institute of Health and

Nutrition, ^{*8}University of Tokyo

Exposure to aflatoxins in Japan: risk assessment for aflatoxin B₁ (わが国におけるアフラトキシンの曝露について: アフラトキシンB₁のリスクアセスメント)

Food Addit Contam., iFirst, 1-8 (2009)

(有機化学部)

- Fukuhara, K., Ohno, A., Nakanishi, I. ^{*1}, Imai, K. ^{*2}, Nakamura, A. ^{*2}, Anzai, K. ^{*1}, Miyata, N. ^{*3}, Okuda, H.

^{*1}放医研, ^{*2}芝浦工大, ^{*3}名市大院薬

Novel ninhydrin adduct of catechin with potent antioxidative activity (抗酸化活性を有する新規カテキン-ニンヒドリン付加体)

Tetrahedron Letters, 50, 6989-6992 (2009)

(機能生化学部)

- Katayama, R. ^{*1}, Ishioka, T. ^{*1}, Takada, S. ^{*2}, Takada, R. ^{*2}, Fujita, N. ^{*3}, Tsuruo, T. ^{*3}, Naito, M.

^{*1}東京大学, ^{*2}基礎生物学研究所, ^{*3}癌研究所

Modulation of Wnt signaling by the nuclear localization of cellular FLIP-L. (cellular FLIP-Lの核移行によるWntシグナルの調節)

Journal of Cell Science, 123, 23-28 (2010)

(代謝生化学部)

- Asakawa, N. ^{*}, Sakiyama, N. ^{*}, Teshima, R., Mitaku, S. ^{*}

^{*}名古屋大学工学部

Characteristic amino acid distribution around segments unique to allergens. (アレルゲンに特異的な断片付近に位置する特徴的なアミノ酸配列)

J. Biochem., 147, 127-133 (2010)

(病理部)

- Ishii Y, Okamura T, Inoue T, Fukuhara K, Umemura T, Nishikawa A.

Chemical structure determination of DNA bases modified by active metabolites of lucidin-3-O-primeveroside (ルシジン配糖体の代謝活性化体によって修飾されたDNA塩基の構造同定)

Chem. Res. Toxicol., 23(1), 134-41 (2010)

(変異遺伝部)

- Okudaira, N. ^{*1}, Uehara, Y. ^{*1}, Fujikawa, K. ^{*2}, Kagawa, N. ^{*2}, Ootsuyama, A. ^{*3}, Norimura, T. ^{*3}, Saeki, K. ^{*4}, Nohmi, T., Masumura, K., Matsumoto, T. ^{*5}, Oghiso, Y. ^{*5}, Tanaka, K. ^{*5}, Ichinohe, K. ^{*5}, Nakamura, S. ^{*5}, Tanaka, S. ^{*5}, Ono, T. ^{*1}

^{*1} 東北大, ^{*2} 近畿大, ^{*3} 産業医科大, ^{*4} 横浜薬大, ^{*5} 環境科学技術研究所

Radiation dose-rate effect on mutation induction in spleen and liver of gpt delta mice. (gpt deltaマウスの脾臓及び肝臓で誘発される遺伝子突然変異に対する照射線量率の影響)

Radiat. Res., 173, 138-147 (2010)

線量率が異なるガンマ線 (920 mGy/min, 1 mGy/min, 12.5 μGy/min) をgpt deltaマウスに照射し, 脾臓及び肝臓において欠失突然変異の誘発頻度および塩基配列変化を解析した. 欠失変異の誘発様式は線量率に依存し, また組織によって異なることが示唆された.

3. 誌上発表(総説・解説等)

(生物薬品部)

- 川崎 ナナ

糖鎖関連医薬品の開発と分析化学

ぶんせき, 421(1), 17-22 (2010)

(遺伝子細胞医薬部)

- 内田恵理子, 山口照英

医薬品のウイルス安全性確保: 核酸増幅検査 (NAT) によるC型肝炎ウイルス検出の評価とNATによる高感度検出のためのウイルス濃縮法の開発

YAKUGAKU ZASSHI, 130 (2), 163-169 (2010)

(環境衛生化学部)

- 西村哲治

水道法に基づく水質基準改正についての解説

食品衛生学雑誌, 50(6), 374-375(2009)

(安全情報部)

- 天沼喜美子, 森川 馨

海外の医薬品安全性情報の入手と活用

月刊薬事, 52(1), 55-61 (2010)

(総合評価研究室)

- 高橋美加, 松本真理子, 宮地繁樹^{*1}, 菅野誠一郎^{*2}, 菅谷芳雄^{*3}, 平田睦子, 広瀬明彦, 鎌田栄一, 江馬眞

^{*1}(財)化学物質評価研究機構, ^{*2}(独)労働安全衛生総合研究所, ^{*3}(独)国立環境研究所

OECD化学物質対策の動向(第15報) - 第25回, 第26回OECD高生産量化学物質初期評価会議(2007年ヘルシンキ, 2008年パリ)

化学生物総合管理, 5(2), 193-200 (2009)

- 松本真理子, 宮地繁樹^{*1}, 菅谷芳雄^{*2}, 広瀬明彦

^{*1}(財)化学物質評価研究機構安全性評価技術研究所, ^{*2}(独)国立環境研究所環境リスク研究センター

OECD高生産量化学物質点検プログラム: 第28回初期評価会議概要

化学生物総合管理, 5(2), 201-209 (2010)

4. 単行本

(生物薬品部)

- 山口照英

バイオ後続品/バイオシミラー医薬品

情報機構(社), 東京(2010), pp. 3-19, 44-57

バイオ後続品の開発動向や各国の規制の違いについて概説すると共に, わが国のバイオ後続品指針で求められている要件について説明した。

(代謝生化学部)

- 手島玲子

食品安全ハンドブック

丸善, 東京(2010), pp. 574-577

第26章3節[2] 遺伝子組換え食品の安全性と表示の章で, 遺伝子組換え農作物の安全性評価のうち, アレルゲン性評価につき解説した。

(病理部)

- 食品安全ハンドブック編集委員会(林裕造, 大野泰雄編集委員長)
分担執筆(西川秋佳, 梅村隆志, 吉田 緑, 今井俊夫)

食品安全ハンドブック

丸善, 東京, (2010), pp83-86, 137-138, 145-147, 180-183, 185-189, 192-194

第II部化学的要因の安全性評価の章で, 食品添加物・農薬の安全性試験評価ガイドライン, 食品添加物の評価事例, フタル酸エステル類・アクリルアミド・ヘテロサイクリックアミン類・臭素酸カリウム・過酸化水素・サッカリンの安全性評価について, 分担執筆した。

(総合評価研究室)

- 平田睦子, 広瀬明彦

食品安全ハンドブック

丸善, 東京 (2010), pp. 142-144

第8章 有害化学物質による汚染の8.3.3多環芳香族炭化水素の項で, 多環芳香族炭化水素の食品中濃度, 体内動態, 毒性情報及びリスクアセスメントについて本書の一部を著述した.

5. 学会・講演等

(生物薬品部)

- 山口照英

バイオ後続品の開発の動向と品質・安全性・有効性確保

第10回医薬品等ウイルス安全性シンポジウム

北里大学薬学部 コンベンションホール (2010.1) (東京)

- 山口照英

細胞・組織加工医薬品等の安全性・品質等の確保

第9回ヒューマンサイエンス研究資源バンクセミナー

千里ライフサイエンスセンター ライフホール (2010.1) (豊中市)

- 新見伸吾

抗体医薬品製造におけるプラットフォーム精製工程によるウイルスクリアランス、不純物の除去

第10回医薬品等ウイルス安全性シンポジウム

北里大学薬学部 コンベンションホール (2010.1) (和光)

(療品部)

- 中野喜隆^{*1}, 植松美幸, 鈴木孝司^{*2}, 中村亮一^{*3}, 青見茂之^{*4}, 伊関洋^{*2}, 梅津光生^{*1}

^{*1}早稲田大学大学院先進理工学研究科生命理工学専攻, ^{*2}東京女子医科大学先端生命医科学研究所先端工学外科分野, ^{*3}千葉大学工学部メディカルシステム工学科医用機器教育研究分野, ^{*4}東京女子医科大学心臓病センター心臓血管外科

胸腹部手術ナビゲーションのための重み付き特徴点レジストレーション

第22回バイオエンジニアリング講演会 (2010.1) (岡山)

(衛生微生物部)

- 木下麻緒^{*1}, 薬袋裕二^{*1}, 鎌田洋一, 小西良子, 杉山圭一

^{*1}玉川大学農学部

デオキシニバレノール誘導性細胞毒性に対するカテキン類の効果

日本マイコトキシン学会第67回学術講演会 (2010, 1) (東京)

- 渡辺麻衣子, 李 謙一^{*1}, 後藤慶一^{*2}, 熊谷 進^{*1}, 小西良子, 工藤由起子

^{*1}東京大学大学院, ^{*2}三井農林株式会社

真菌からの迅速な大量DNA抽出のための物理的抽出法、化学的抽出法および市販キットの比較検討

日本マイコトキシン学会 第67回 学術講演会 (2010.1) (東京)

- 鎌田洋一

毒素産生性細菌による食中毒

国立保健医療科学院 平成21年度特別課程 食品衛生管理コース

国立保健医療科学院 (2010.1) (東京)

- 鎌田洋一

乳・肉中の生物毒素と人への健康影響

厚生労働省医薬食品局食品安全部 平成21年度食肉衛生技術研修会

星陵会館ホール (2010.1) (和光)

(有機化学部)

- 今井耕平^{*1, 2}, 中西郁夫^{*3}, 安西和紀^{*3}, 小澤俊彦^{*4}, 奥田晴宏, 中村朝夫^{*2}, 福原 潔

^{*1}国衛研, ^{*2}芝浦工大院工, ^{*3}放医研, ^{*4}横浜薬科大学

エピガロカテキン誘導体の合成—高い抗酸化能を示すエピ体への期待—
第24回日本酸化ストレス学会関東支部会(2010.1) (つくば)

- 中西郁夫^{*1}, A K M Raushan Kabir Zoardar^{*1}, 大久保敬^{*2}, 稲見圭子^{*3}, 松本謙一郎^{*1}, 望月正隆^{*3}, 福原 潔, 奥田晴宏, 福住俊一^{*2}, 小澤俊彦^{*1, 4}, 安西和紀^{*1}

^{*1}放医研, ^{*2}阪大院工, ^{*3}東京理科大, ^{*4}横浜薬大

ビタミンE類縁体アニオンによる電子移動還元反応
第21回ビタミンE研究会(2010.1) (東京)

- 奥田晴宏, 檜山行雄

ICHQ8-Q10におけるRTR

第9回医薬品品質フォーラム(2010.1) (東京)

(機能生化学部)

- 佐井君江, 斎藤嘉朗, 立脇直子, 細川正清^{*1}, 鹿庭なほ子, 最上(西巻)知子, 内藤幹彦, 澤田純一, 白尾国昭^{*2}, 濱口哲弥^{*2}, 山本 昇^{*2}, 国頭英夫^{*2}, 大江裕一郎^{*2}, 田村友秀^{*2}, 山田康秀^{*2}, 吉田輝彦^{*3}, 南博 信^{*4}, 大津 敦^{*4}, 松村保広^{*4}, 西條長宏^{*4}, 奥田晴宏

^{*1}千葉科学大学, ^{*2}国立がんセンター中央病院, ^{*3}国立がんセンター研究所, ^{*4}国立がんセンター東病院

日本人癌患者におけるカルボキシエステラーゼ1A遺伝子型によるイリノテカン薬物動態への影響

第23回日本薬物動態学会年会 (2009.11) (京都)

- 内藤幹彦

Drug resistance and apoptosis of cancer cells. (がん細胞の薬剤耐性とアポトーシス)

The 14th JFCR International Symposium on Cancer Chemotherapy (2009.12)
(東京)

(代謝生化学部)

- 安達玲子

アレルギー表示の検査法

日本食品衛生学会第12回特別シンポジウム
(2010.1) (東京)

(薬理部)

- 小島 肇

今後の展望

JaCVAM第3回ワークショップ, h-CLATシンポジウム
(2010.1) (東京)

(病理部)

- 梅村隆志

食品添加物安全性評価の実際

平成21年度食品安全に係る科学セミナー
農林水産省, (2010.1) (東京)